

障害者の住環境整備 ～トイレ編～

川村義肢(株) 福祉住環境コーディネーター 井脇 泰弘

日常生活の中での排泄行為は人間が生きていく上で欠かすことのできない重要な行為です。同時に尊厳に関わる行為でもあるため、住環境整備の中でも排泄時の環境改善は大切なポイントとされています。

排泄における住環境整備の方法としてはポータブルトイレなどの用具を利用する方法と、和式から洋式便器に取り替えるなどの住宅を改修する方法があります。

それぞれ、目的に応じて用具や改修内容が決定されますが、最近では「排泄そのもの」をしやすくする姿勢として排便時の「前傾姿勢」(表①)への関心が高まっており、前傾姿勢の保持を目的とした福祉用具が多く開発されています。(写真①、②、③)

- ・腹圧をかけやすくいきみやすい
- ・重心が前方に移ることで臀部への圧力が軽減する
- ・臀部の筋や皮膚が引っ張られ、肛門周囲が突出する
- ・直腸—肛門角が鈍角になり、便の排出が容易になる

排便時における前傾姿勢の利点(表①)



(写真①)



(写真②)



(写真③)

今回は、この「前傾姿勢」を考慮した児童用手すりの事例を紹介したいと思います。

事例紹介 ～児童用 姿勢保持手すり～

大正区 Aさん

Aさんは脳性まひの女の子で、現在中学生です。

Aさんは体幹のトーンがやや低く、座位では前方へ倒れがちになるため、支えがないと便器上で座位が不安定です。体幹の不安定さを補うため介助時に両体側を支える必要がありますが、成長するにつれて母親が介助に負担を感じ始めたため、通園している施設のセラピストに相談されました。そこで、前腕で支持できるものとして簡易型のテーブル手すり(イレクター製、自作)の使用をすすめられました(写真④)。

この手すりを使用することで排泄は自立していましたが、身体が大きくなってきたこと、緊張が強くなったときの安全性



(写真④)

を考え、固定型の手すりを取り付けることになりました。Aさんは筋緊張による両上肢の引き込みがあり、握り込むタイプの通常の手すりでは姿勢の安定が難しいことから、前回と同じくテーブル形状にし、適度な前傾姿勢を保てるようにしています(写真⑤)。

適度な前傾姿勢をとれるよう、
テーブル高
前後位置を設定



(写真⑤) 使用時



(写真⑥) 跳ね上げ機能

テーブルを
跳ね上げて
介助スペースを
確保

フレームを
縮めることで
開口幅を
有効に使える



(写真⑦) フレーム伸縮機能



(写真⑧) 改修前

出入口の
足もとにフレームの
出っ張りがある



(写真⑨) 改修後

フレームを
なくすことで
出入りを
スムーズに

今回、追加機能としてテーブルを跳ね上げ式とし、(写真⑥)さらに跳ね上げたテーブルを引っ掛けるためのフレームを伸縮式(写真⑦)とすることで、出入りと介助のスペースを確保しています。また足元のフレームの出っばりをなくし(写真⑧⑨)トイレ入り口の敷居も合わせて撤去することでスムーズに出入りができ、介助がしやすくなっています。

おわりに

今回の事例のように、在宅において排泄で困っているケースは実際にはかなりあるようですが、児童の場合では成人と比べるとニーズに反して適切な用具の供給は不足しているのが現状です。

今後、少しずつでもこのような取り組みについて紹介していくことで、関連業界による新しい用具の開発が活性化され、住環境整備の選択肢が増えていくことを願っています。